



福島イノベーション・

コースト構想

点から線、面へと拡大し復興を推進

福島イノベーション・コースト構想推進機構

伊藤泰夫 専務理事

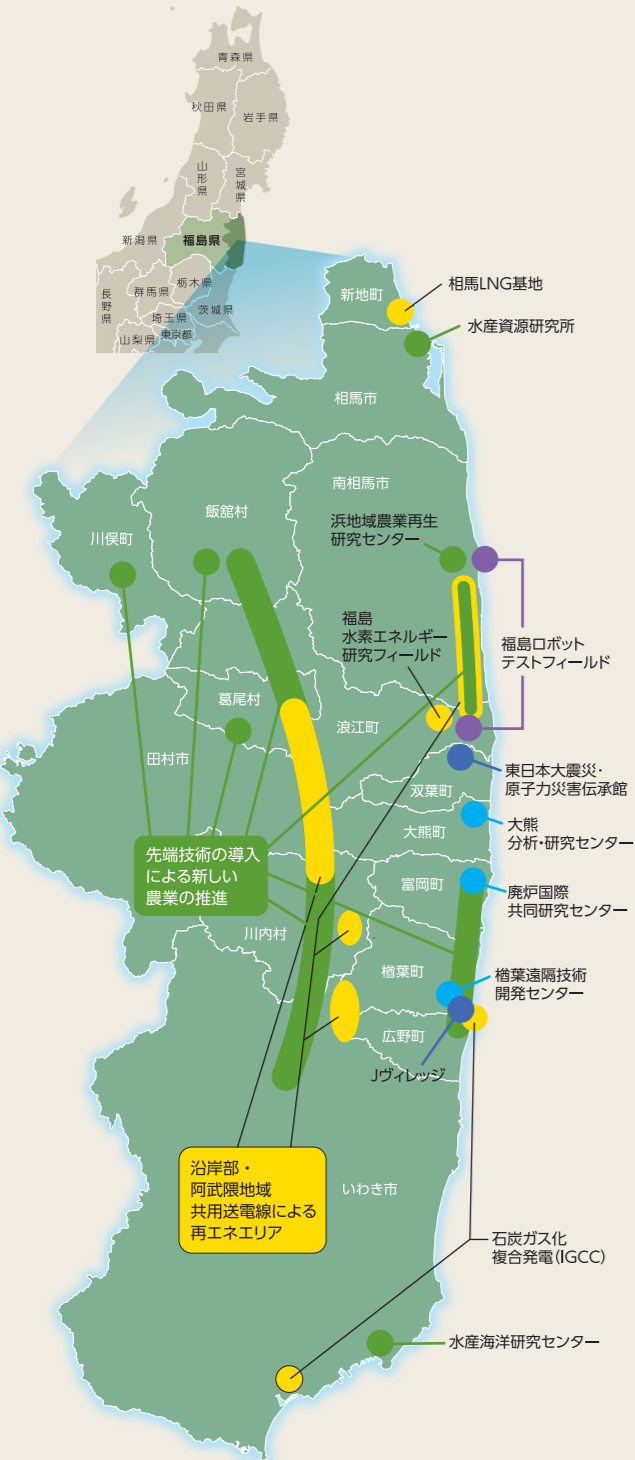


複合災害被災地で
新たな産業基盤を作る
廃炉、ロボットなど
6プロジェクトが始動

福島イノベーション・コースト構想は、東日本大震災と原子力災害によって失われた浜通り地域の産業を回復するために新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。2018年4月から、構想推進の中核機関として、福島イノベーション・コースト構想推進機構が本格的に活動を開始しました。

主なプロジェクトは、廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙整備しています。ここが復興の拠点となり、雇用を増やし、人材育成にもつながります。

ロボット・ドローンの開発拠点となっている福島ロボットテストフィールドは、南相馬市の復興工業団地にあり、東西約1000m、南北約500mの敷地内に「無人航空機エリア」「インフラ点検・災害対応エリア」「水中・水上ロボットエリア」「開発基盤エリア」を設け、進出企業が研究開発や操縦訓練を行っています。浪江町の棚塩産業団地には長距離飛行試験用の滑走路を作りました。南相馬の研究棟には22の研究室があり、全国から大学や企業などが集まり、現在では56の企業・団体が集積していま



宙の6分野で、推進機構はそれらのプロジェクトの具体化に向けて、産業集積、教育・人材育成、交流人口拡大、情報発信を柱にした取り組みを進めています。

廃炉は、浜通り地域の復興に必要不可欠です。国内外の英知を集結して、研究開発と人材育成を進めながら、廃炉関連産業の集積も図ります。ロボット・ドローンでは、福島ロボットテストフィールドが整備され、物流、インフラ点検、大規模災害で活用が期待さ

す。拠点のある南相馬市には、ロボットテストフィールドにちなんだ焼き菓子「ロボテス」を販売する菓子店や、カクテルを提供する飲食店も登場しました。

教育・人材育成については、震災以降、県内外の大学が自治体や企業、高校と連携して教育研究活動を実施しています。そこで、復興に寄与する「知」を集積するため、浜通りに拠点を置いて市町村と協定を結んだ大学に対し、補助金による支援を行っています。これまでで東京農業大学が浪江町で行なった新規作物の試験栽培と特産品の開発、会津大学が南相馬市の小中高校で実施したロボットプログラミングを通じた人材育成などの多くのプログラム

れるロボットやドローンの研究開発と実証試験を行なっています。

エネルギー・環境・リサイクルでは、再生可能エネルギーの導入促進、水素社会の実現に向けたモデル構築、再生可能エネルギーを活用した復興まちづくり（スマートコミュニティ）を指します。農林水産業のプロジェクトでは、ICT（情報通信技術）を活用した環境制御型施設園芸モデルの構築や、県の水産物の高鮮度化や加工技術の開発、放射性物質対策の試験研究に取り組んでいます。

医療関連と航空宇宙は、2020年4月から始まったプロジェクトです。医療関連では、住民の高齢化や医療・介護人材の不足が進むなか、新規参入も含めて医療関連産業の集積を目指し

が採択されています。浜通りの子どもたちにとっては、大学生・大学院生を身近に感じることが出来る絶好の機会になっています。

長崎大学のロボットや 医療への参画に期待 伝承館から 世界へ情報発信を続ける

長崎大学のイノベーション・コースト構想への参画を期待しています。ロボットテストフィールドには深さ7mの屋内水槽があり、企業・団体による海のバッテリー（水中ロボット）の社会

ロボット、農林水産、医療、航空宇宙など6分野の「知」を集積し、被災地に新しい産業基盤を創造するだけでなく、人材の育成や災害の伝承まで担うプロジェクトが進行しています。

ています。航空宇宙については、航空宇宙産業に参入する企業の支援や産業を担う人材育成を進める予定です。

進出企業と地元企業の マッチングなど 推進機構は ソフト面での取組に重点

当機構は、これらのプロジェクトを実現するためのソフト面での取り組みを主な業務としています。産業集積は、県外企業の誘致や、進出企業と地元企業とのマッチングなどが主な取り組みです。浜通りを中心とした15市町村に新たな産業集積を作るために拠点を

実装を進める研究が行われています。福島島の多い長崎県では有用な技術とされています。

医療関連への関わりも重要です。帰還した住民の多くは高齢者で、見守り需要が高まっています。2024年までに国際的な教育研究拠点を構築し、放射線安全・健康、リスクコミュニケーションが重点分野の一つに位置付けられています。山下俊一名誉教授、高村昇教授が中心になっています。

イノベーション・コースト構想の一つである東日本大震災・原子力災害伝承館は、情報発信の拠点として重要です（P16参照）。複合災害に被災した唯一の地域である福島から、今後の防災の教訓として常にその記録や記憶を伝え続けていきます。

現在は構想の拠点は浜通りに点在していますが、廃炉プロジェクトに中通りの企業からのマッチング登録があるなど、少しずつ福島県全体が関わるプロジェクトだと見える状況になってきました。浜通りと中通り、会津、そして県外へと、構想を点から線、線から面へ広げていきたいと思っています。



① 廃炉国際共同研究センター ② ロボット・ドローン実証実験
③ 再生可能エネルギーの導入 ④ ICTを活用した農業モデル
⑤ 医療-産業トランスレーショナルリサーチセンター ⑥ 航空宇宙フェスタふくしま